

1. 上位計画・関連計画における位置づけの整理

1 - 1 上位計画の整理

上位計画における本市の位置づけは、以下に示すとおりです。

新しい政策の指針 ~今を越え、さらに世界で輝く愛知づくり~ 平成18年3月策定

基本課題及び柱となる政策の方向 (都市計画に関連する具体的な内容を抜粋)

(1) 安心・安全で元気な地域づくりとその実現に向けた社会資本の整備

災害や犯罪に強い社会づくり

建築物の耐震化の促進

河川の改修、流域貯留機能の確保も含めた総合治水対策などの推進

活力と魅力ある地域づくり

中心市街地における駅前等の拠点地区の再整備や住宅の供給及び近隣商業機能の強化並びに福祉・文化・生涯教育などの公共公益施設の立地
コミュニティバス¹などの公共交通機関の充実と、ゆとりのある歩行空間や公園・水辺などの確保

歩行者・自転車優先の道づくり、歩行空間のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン²の導入

公共事業における景観への配慮、多様な主体の連携・協働による景観に配慮したまちづくりなどによる地域の魅力向上

(2) 豊かで快適な暮らしを創出する循環型社会づくり

人と自然の共生

森林、農地、川、海などの自然の恩恵を持続的に享受していくための希少種や地域固有の動植物種の保護

(3) 県内各地域の特性を踏まえたバランスある発展【尾張北部・知多・西三河地域】

産業の高度化や次代を担う先端産業の集積と世界レベルでの産業技術の中枢性の強化に向けた、産業の受け皿となる産業用地の確保

1 コミュニティバス ... きめ細かい地域の公共交通需要に対応するために、自治体の支援を受けて運行するバスのこと。

2 ユニバーサルデザイン ... 障害者・高齢者・健常者の区別なしに、すべての人が使いやすいように製品・建物・環境などをデザインすること。

愛知県国土利用計画（第三次）

平成 10 年 3 月策定

地域別概要（西三河地域）

平成 7 年の人口は約 138 万であり、平成 22 年は約 150 万人を想定する。

西三河地域の土地利用の目標

区 分	平成 22 年		備 考
	面積 (百 ha)	構成比 (%)	
農 用 地	233	13	
森 林	912	52	
原 野	1	0	
水面・河川・水路	81	5	
道 路	123	7	一般道路並びに農道及び林道
宅 地	224	13	
そ の 他	187	11	
地 域 面 積	1,761	100	
(市 街 地)	221	13	「国勢調査」の定義による人口集中地区

第 3 次衣浦東部広域行政圏計画

平成 12 年 8 月策定

基本計画の内容（本市に関連する内容を抜粋）

第 1 章 都市基盤 / 圏域を支える質の高い空間基盤づくり

知立駅周辺地区の整備を進め、圏域の中心となる拠点地区の形成を図る。
 名豊道路、衣浦豊田線の早期整備を国・県等関係機関に要望する。
 地域公共交通網の軸である名鉄三河線の複線化・高架化を要望する。
 境川流域下水道の早期整備を促進する。

第 3 章 産業・経済 / 活力ある創造的で高度な産業圏域づくり

知立駅周辺地区における面的整備事業等にあわせて、企業の立地誘導を支援する広域拠点性の高い商業空間の整備をはかる。

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針<衣浦東部都市計画区域> 平成 16 年 4 月策定

主要な都市計画の決定等の方針 (本市に関連する具体的な内容を抜粋)

(1) 土地利用について

近隣地区の日常的な購買をまかなう一般商業地を知立駅周辺地区等に配置する。

旧東海道の面影を残す歴史的な街並み等の保全を図る。

猿渡川等の中小河川周辺の低地部で、溢水・湛水等による災害の恐れのある地域については、今後とも市街化の抑制を図る。

(2) 都市施設について

(都) 名豊線や(都) 衣浦豊田線の整備を図る。

名鉄知立駅付近については、鉄道の立体交差化にあわせ、幹線道路を整備することにより、交通の安全と円滑化を図る。

名鉄知立駅付近の立体交差事業の推進を図る。また、名鉄三河線の複線化の促進を図る。

境川流域下水道の整備を図る。

逢妻川、猿渡川の整備を図る。

(3) 市街地開発事業について

概ね平成 22 年までに実施することを予定する主要な市街地開発事業

主要な市街地開発事業

事業名	市町村名	地区名
土地区画整理事業	知立市	知立駅周辺、知立駅南、知立第三、知立上重原

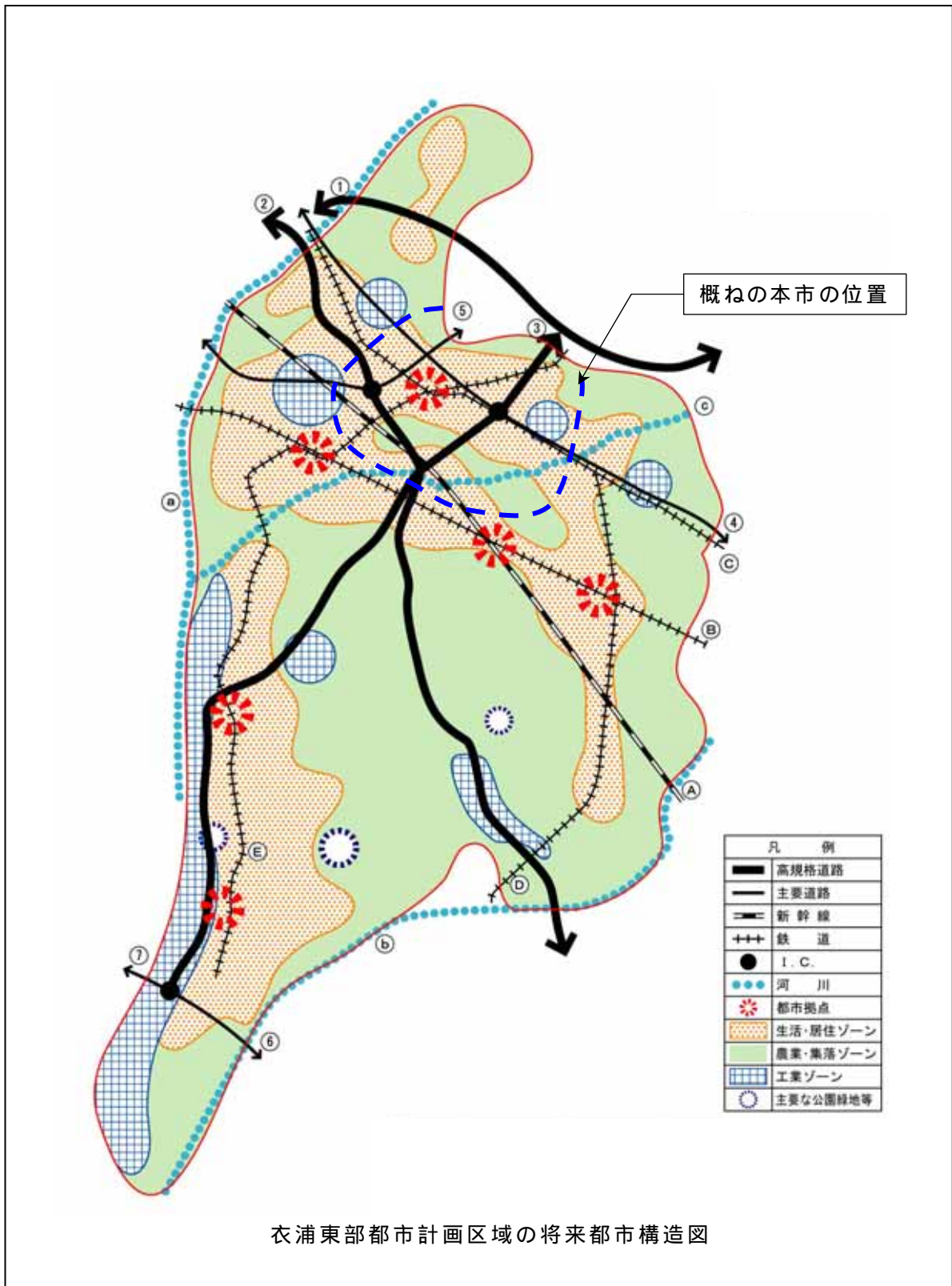
(4) 自然的環境の整備又は保全について

旧東海道松並木等、各地の社寺建造物等と一体となった樹林地の保全を図る。

逢妻川、猿渡川等の河川沿いの低地及び市街地周辺の農地等の保全を図る。

整備を図る都市公園等

都市公園等の種別		整備方針の概要
都市基幹公園	総合公園	知立市の猿渡川沿いの整備を図る。



将来の人口

70,000人（平成26年度）

土地利用の基本方針

【住居ゾーン】

- ・下水道や生活道路などの都市基盤の整備を進める。
- ・区画整理事業や地区計画などの導入を図りながら、市民の生活様式に応じた快適な住環境と新たな住宅地の創出を進める。
- ・公園や緑のスペースなどの確保に努める。
- ・緑道ネットワークや歩行者優先道路の整備を進める。

【拠点ゾーン】

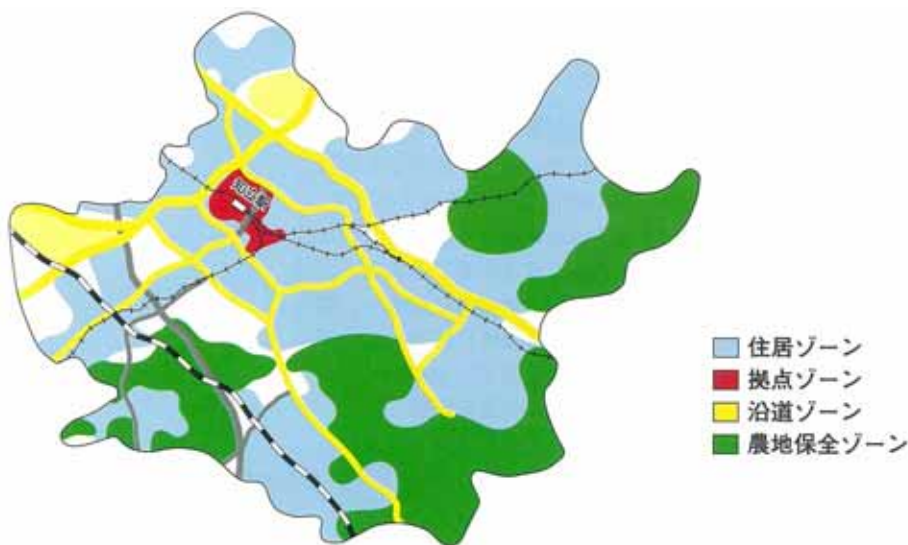
- ・鉄道の立体交差事業を含めた知立駅周辺地域整備構想の計画的な推進を図り、商業・業務、情報、文化、交通機能が集約した拠点を形成する。
- ・この拠点を核に、文化会館をはじめとする文化・歴史拠点との連携を図り、市内外から多くの人を集客する土地利用を進める。

【沿道ゾーン】

- ・第2東名高速道路や国道1号、23号、155号、419号など、広域的な交通条件の良さを活かし、既存産業の発展を促す。
- ・新たな事業所の進出を誘導する土地利用を進める。

【農地保全ゾーン】

- ・農地のもつ保水性や緑地機能など多面的な機能を活かす。
- ・良質な農産物を生産する農地としての機能を保全する。



土地利用概念図

1 - 2 関連計画の整理

関連計画に位置づけられる諸施策は、以下に示すとおりです。

知立市中心市街地活性化基本計画	平成 12 年 3 月策定
中心市街地活性化の方針図	
市街地の整備改善方針	
短期事業着手 (概ね 5 年以内の実施を予定)	
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ネットワークの整備改善 ・利用者の視点に立った施設の改善(バリアフリー) ・知立らしさを醸し出す景観づくり(街並みづくり、公共サインの導入)
区画整理地区	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が中心に暮らす住宅の供給支援 ・都市施設の整備推進(土地区画整理事業、鉄道高架化、(都)知立南北線などの整備推進)
新地地区	<ul style="list-style-type: none"> ・懐かしさ、生活の臭いが漂うまちづくり(コミュニティの維持、街なか居住の支援)
周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい空間の創出(ほっとスポットの整備)
中・長期事業着手 (概ね 5 年以降の実施を予定)	
区画整理地区	<ul style="list-style-type: none"> ・住む場と働く場が一体となった都心居住の推進 ・文化・福祉・教育等サービス機能の誘導(生活支援施設の整備・立地誘導、生涯学習機能の充実) ・都市施設の整備推進(土地区画整理事業の推進)
新地地区	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援施設の誘導(街なか居住を支援) ・文化・福祉・教育等サービス機能の誘導 ・都市施設の整備推進((都)安城知立線の整備)
周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ・都市施設の整備推進((都)築地牛田線の整備、歩行者・自転車ネットワークの整備) (都)築地牛田線は(都)宝町昭和線に名称変更した。

総合的な緑地の配置及び都市緑化に関する計画の策定

(1) 骨格的な緑地の配置

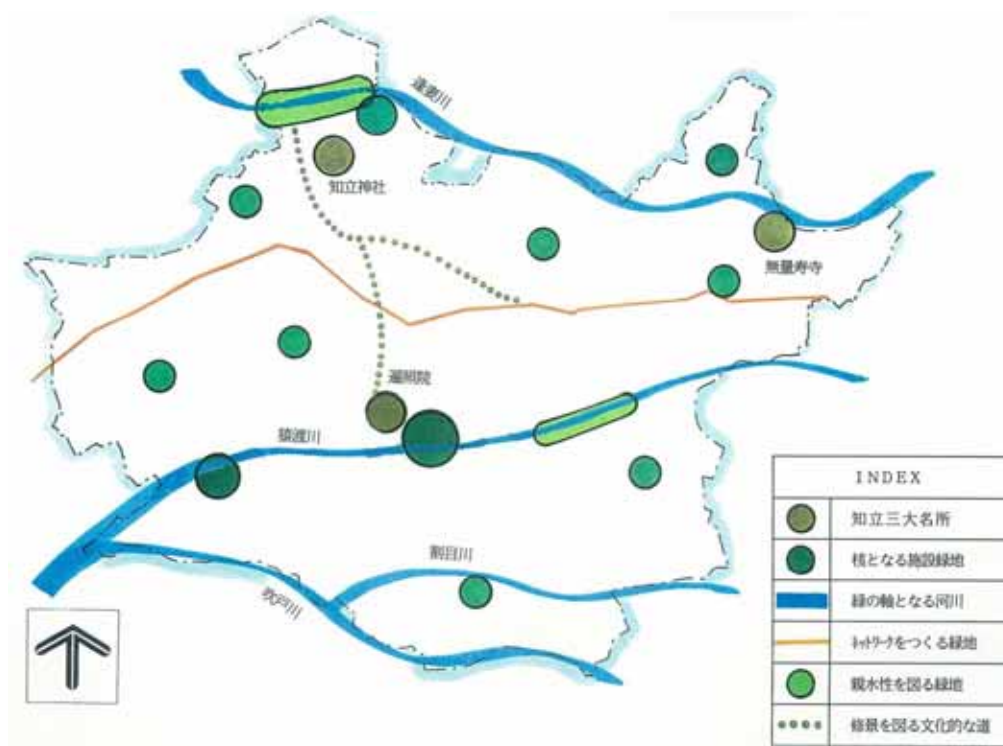
- ・ 歴史・文化軸の方向上や緑の骨格となる逢妻川、猿渡川、吹戸川に隣接するように核となる都市基幹公園を配置する。

(2) ネットワーク形成

- ・ 骨格的緑地や中継地となるような大小の施設緑地や農地を河川や道路の緑化によりネットワークが形成できるように配置する。

(3) 緑地等の均衡ある配置

- ・ 均衡ある都市環境が形成されるように都市公園の配置を行うとともに、各地域に近隣公園をおよそ 1 か所、名鉄名古屋本線の南北に地区公園を各 1 か所配置する。



緑の将来像

2. 都市の現状把握と都市づくりの課題

2 - 1 都市の現状把握

(1) 自然条件

- ・名古屋市から 25km 圏内、愛知県のほぼ中央に位置しており、北は豊田市、南は安城市、西は刈谷市とそれぞれ隣接しています。
- ・名古屋市へは、名鉄名古屋本線を利用すれば 20～30 分、自動車では名古屋都市高速道路を利用すれば 40～50 分の距離にあります。
- ・市域の面積は 16.34 k m²で、岡崎平野の広大な平坦地にあり、ひし形状の地形をなしています。



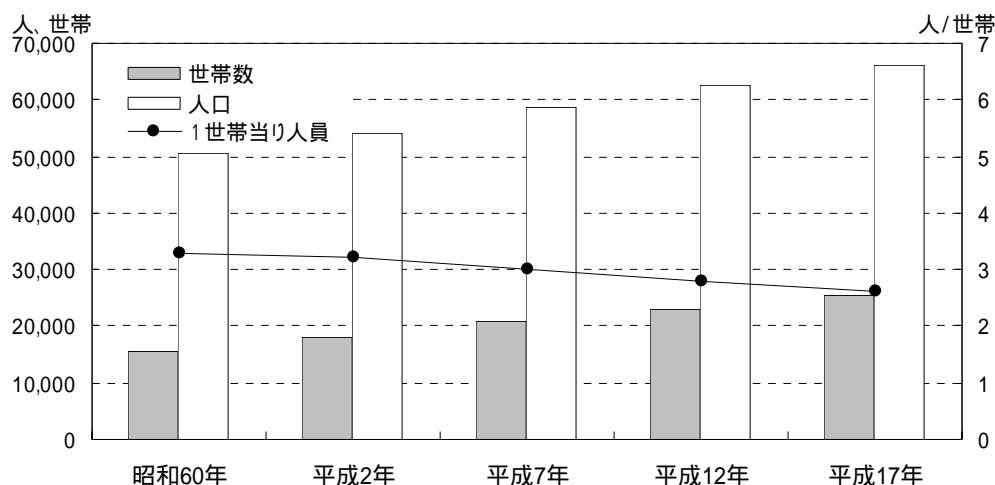
位置図

(2) 歴史的条件

- ・本市は、古くは東海道の宿場町として栄えてきました。明治 4 年の廃藩置県当時は 9 か村でしたが、明治 39 年に上重原村等が合併して現在の市域となりました。
- ・昭和 42 年の「知立団地」の完成に伴い、人口の急速な増加とともに都市化が進み、昭和 45 年に市制が施行されました。
- ・本市域には、中世の鎌倉街道が通り、また、江戸時代に宿場町として栄えたことから、歴史や文化的な蓄積のある地域となっています。文化財は、国指定重要文化財 2 件、県指定文化財 10 件及び市指定文化財 82 件と数多く保存されています。
- ・主な史跡・文化財としては、花しょうぶの知立神社、かきつばたで有名な無量寿寺及び三河三弘法の遍照院などがあります。

(3) 人口動向

- ・平成 17 年の国勢調査における人口は 66,085 人であり、年々増加しています。
- ・年齢 3 区分別人口は、生産年齢人口および高齢人口が増加している一方で、年少人口が減少しています。
- ・産業別就業別人口は、第一次産業がわずかで、第二次産業、第三次産業が、概ね 50% ずつを占めています。
- ・流出人口は、刈谷市・名古屋市を中心に流出超過になっています。流出人口、流入人口ともに増加しているものの、流出人口の増加量が上回っており、流出超過の傾向を強めています。
- ・自然動態及び社会動態は、自然動態が継続して増加を保っており、市全体の人口増加が継続する主な要因となっています。
- ・市街化区域内の人口密度は、衣浦東部地域 5 市及び愛知県平均と比較して、本市が最も高くなっています。



資料：国勢調査

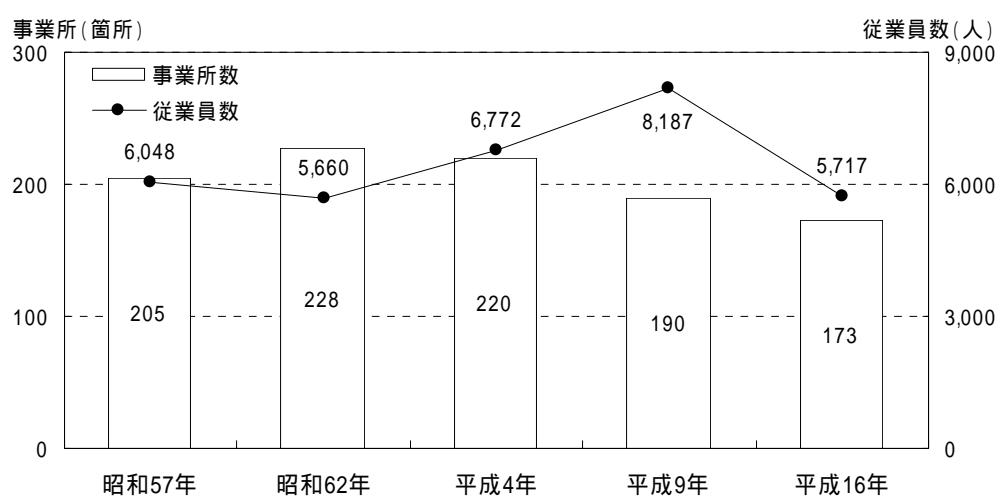
人口・世帯数の推移

(4) 土地・建物利用

- ・市街化区域内では住宅用地を中心に、概ね都市的土地利用がなされていますが、来迎寺町、山町などでまとまった農地が見られます。
- ・商業用地は、国道 1 号・155 号などの幹線道路沿道に多く分布しています。また、知立駅周辺では商業や業務施設が面的に広がっていますが、集積が低く、低未利用地も多く見られます。
- ・市街化調整区域のうち、上重原町などで宅地化が進展しています。
- ・木造家屋、非木造家屋とも床面積が増加しており、特に住宅用途での増加率が高くなっています。

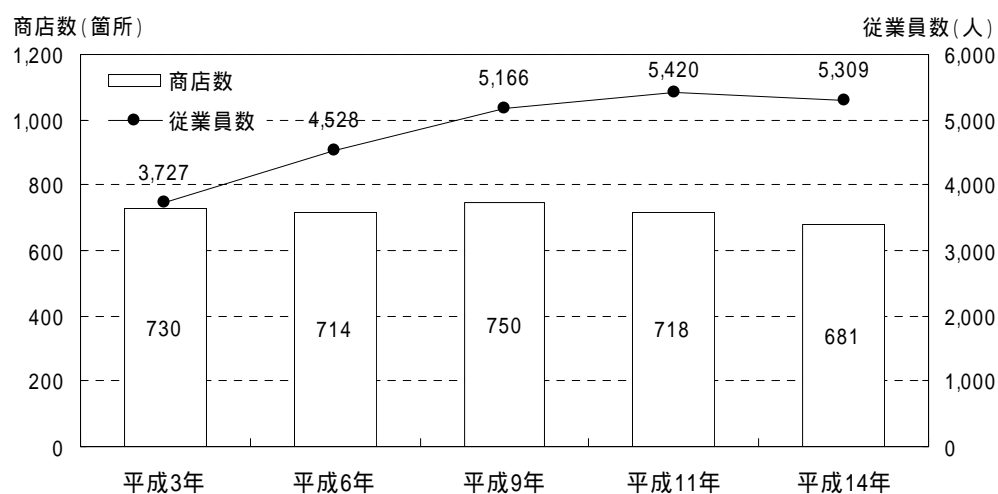
(5) 産業構造

- ・事業所数、従業者数は、一時期減少しましたが、最近では、増加に転じています。
- ・農家数は、昭和55年から平成12年にかけて半減し、経営耕地面積も同様に減少傾向となっています。
- ・工業の事業所数、従業員数及び製造品出荷額等が近年は減少傾向にあるなかで鉄鋼業や輸送機器が徐々に製造品出荷額等を伸ばしています。
- ・商店数及びその従業員数、また、年間商品販売額は、近年は横ばいに推移しています。



資料：工業統計調査

工業の事業所数と従業員数の推移



資料：商業統計調査

商業の商店数と従業員数の推移

(6) 交通体系

- ・国土軸を担う国道 1 号のほか、国道 23 号、155 号、419 号の主要な国道 4 路線のほか、主要地方道などの県道と合わせて市内道路網の骨格を形成しています。
- ・鉄道は、名古屋市・豊橋市方面を結ぶ名鉄名古屋本線と豊田市・碧南市方面を結ぶ名鉄三河線が市中心部の知立駅で連絡しています。市内には、名鉄名古屋本線に知立駅と牛田駅、名鉄三河線に三河知立駅と重原駅が設置されています。
- ・バスは、知立駅を基軸に刈谷市北部方面、昭和地区（知立団地）方面へ連絡する路線があります。そのほか、市民の身近な交通手段として、知立ミニバス（コミュニティバス¹）が運行されています。
- ・知立駅は、年間約 570 万人が利用する名鉄名古屋本線の主要駅ですが、利用者は減少傾向となっています。



平成 18 年 3 月 31 日現在

交通体系図

1 コミュニティバス ... きめ細かい地域の公共交通需要に対応するために、自治体の支援を受けて運行するバスのこと。

(7) 市街化動向

- ・本市のD I D¹は、平成7年になると、中心部に加えて新林～谷田町の市街地もD I Dとなり、平成12年では746haとなっています。D I Dの面積は市街化区域の約70%を占めています。

(8) 都市基盤整備状況

市街地整備

- ・土地区画整理事業地区は、平成18年3月31日現在で施行済8地区(231.8ha)、施行中3地区(144.8ha)となっており、市街化区域に対する整備率は、施行中の地区も含め約35%となっています。

都市計画道路

- ・都市計画道路は、全33路線、総計画延長45,870mとなっています。これに対し、平成18年3月31日現在で、整備率71.5%(概成済含む)となっています。

都市公園

- ・都市公園は、平成18年4月10日現在で、37箇所、14.4haが供用され、市民1人当たりの公園面積は2.13m²となっています。
- ・主要な公園は、近隣公園の昭和6号公園、草刈公園、新地公園のほか、上重原公園が未供用となっています。

河川

- ・二級河川の猿渡川、逢妻川が5年確率²の整備に対して未整備区間があります。また、準用河川は、才兼川、法真川に未整備区間があります。

下水道

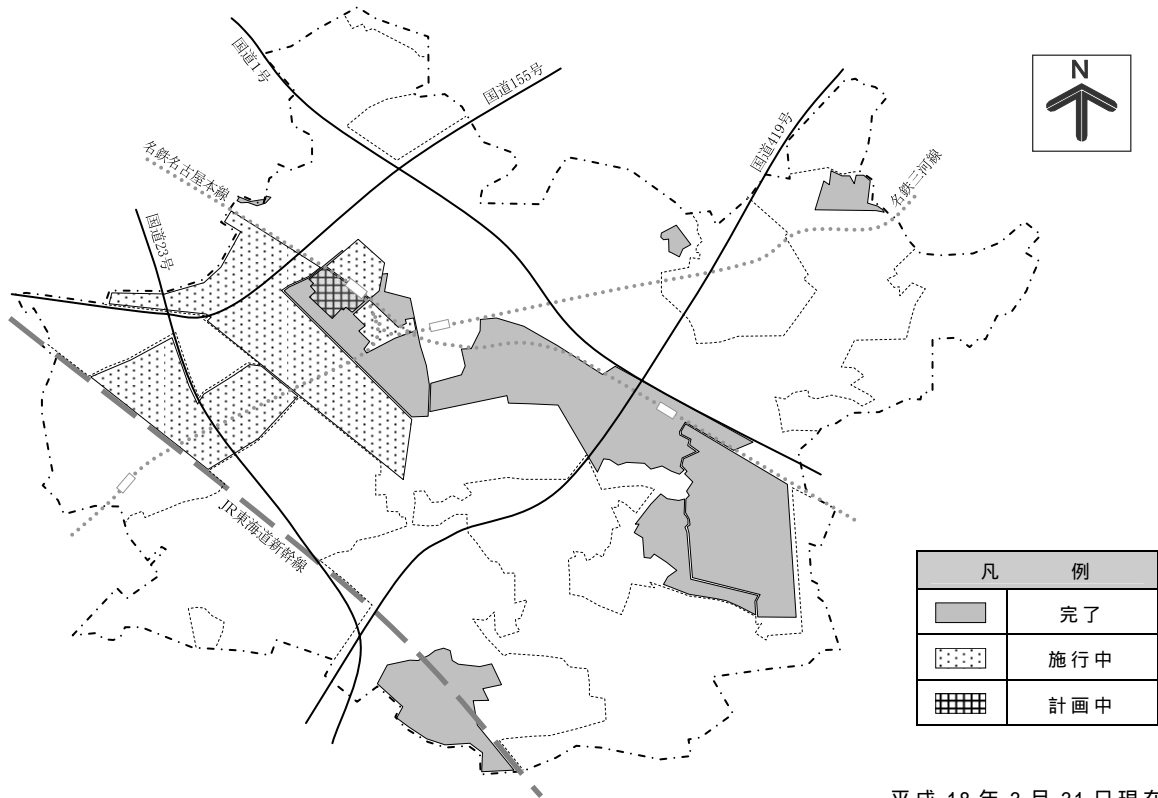
- ・下水道は、平成18年3月31日現在で、448haの区域で供用され、処理人口普及率は48.7%となっています。

農業基盤整備

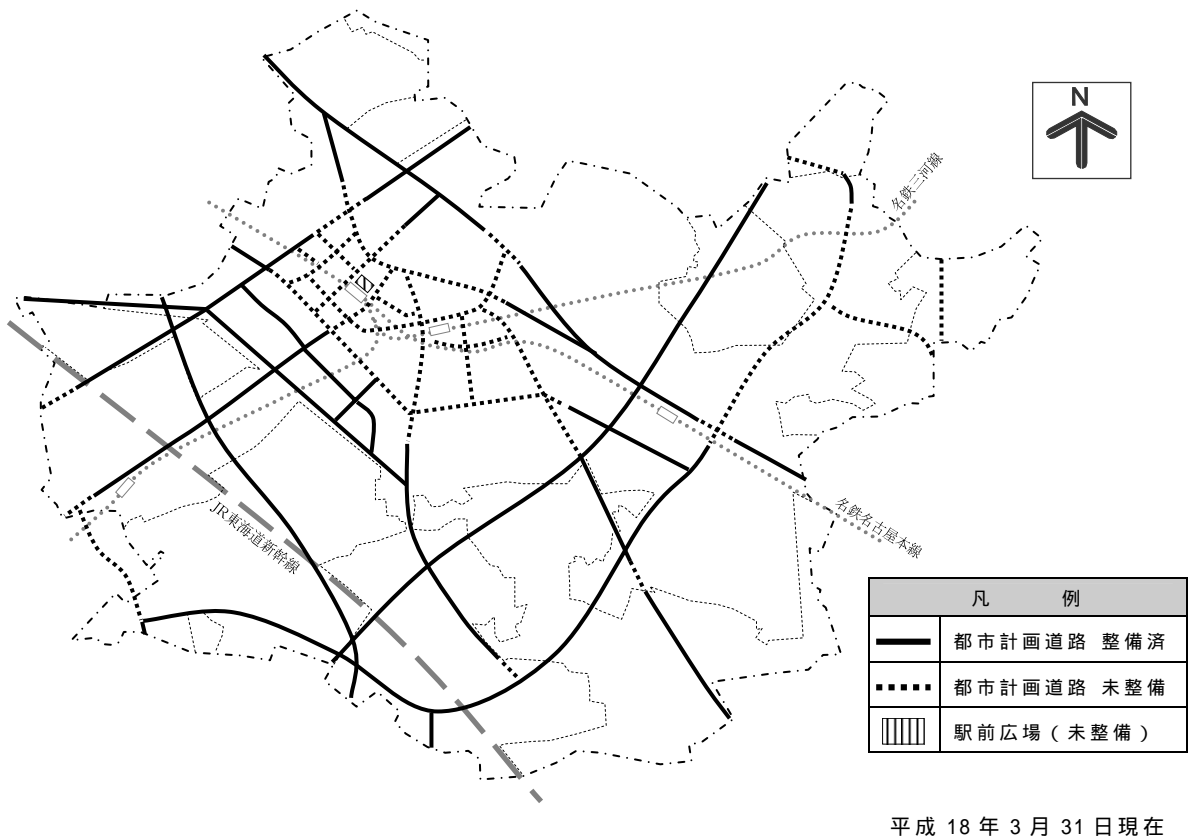
- ・農業基盤整備(ほ場整備事業)は、平成17年5月現在で、施行済8地区(453.8ha)となっています。

1 D I D ... 人口が集中している都市的な区域(人口集中地区)のこと。国勢調査の調査区を単位として、人口密度の高い(原則4,000人/km²以上の)調査区が隣接して、合計5,000人以上の区域としている。

2 5年確率 ... 5年に1回程度の確率で降る大雨のこと。「5年確率の整備」とは、これに対する治水上の安全度を確保することである。



土地区画整理事業施行位置図



都市計画道路の整備状況図

(9) 公共公益施設の現況

- ・教育施設は、幼稚園が4園、小学校が7校、中学校が3校あるほか、高等学校が2校、各種専門学校が3校あります。
- ・主な文化施設は、市中心部に文化会館、図書館・歴史民俗資料館、中央公民館があり、八橋町に八橋史跡保存館、知立文化広場などがあります。
- ・幼児・児童の福祉施設は、保育園が14園、児童館や児童センターなどが8箇所あります。高齢者の福祉施設は、老人憩いの家が2箇所あります。総合的な福祉施設として、福祉の里八ツ田に地域福祉センター、高齢者生きがいセンターがあり、福祉体育館には児童センター、老人福祉センター、身体障害者福祉センターが併設されています。
- ・行政サービス施設は、市役所のほかにリリオに出張所などがあります。

(10) 土地利用規制

- ・市街化区域は1,081haで、市域の66%を占めています。
- ・市街化区域内の用途地域は、住居系用途地域が81.8%、工業系用途地域が13.6%、商業系用途地域が4.6%となっています。
- ・農業振興地域は525haであり、市街化調整区域の95%を占めています。また、そのうちの362haが農用地区域に指定されています。

用途地域の現況

区 分		面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
住居系	第1種低層住居専用地域	75	6.9	884	81.8
	第2種低層住居専用地域	0	0.0		
	第1種中高層住居専用地域	279	25.8		
	第2種中高層住居専用地域	7	0.6		
	第1種住居地域	495	45.9		
	第2種住居地域	15	1.4		
	準住居地域	13	1.2		
商業系	近隣商業地域	26	2.4	50	4.6
	商業地域	24	2.2		
工業系	準工業地域	58	5.4	147	13.6
	工業地域	89	8.2		
	工業専用地域	0	0.0		
合 計		1,081	100.0	1,081	100.0

平成18年3月31日現在

2 - 2 都市づくりの課題

(1) 土地利用・市街地整備

- ・市街化区域内の未利用地の宅地化
- ・土地区画整理事業の推進
- ・中心市街地における魅力ある市街地形成と土地の有効高度利用
- ・将来の人口動向を踏まえた新たな住宅地の確保
- ・新たな事業所などが進出する産業用地の確保
- ・市街化調整区域の土地利用の規制・誘導
- ・河川周辺などの水害危険地域での市街化の抑制
- ・住宅密集地の改善と居住環境の維持・向上
- ・住宅環境と工場の操業環境の共生・分離

(2) 道路

- ・幹線道路及び都市計画道路の計画・整備
- ・渋滞発生箇所となっている交差点などの改良
- ・狭隘な生活道路の改善
- ・歩きやすい歩道の整備や地域の資源を活かした緑道や散策路の計画・整備

(3) 鉄道・公共交通

- ・知立駅周辺の連続立体交差事業の推進
- ・駅前広場や駐輪場等の鉄道駅周辺の整備
- ・名鉄三河線の複線化の検討
- ・ミニバスのサービス水準の向上

(4) 公園・緑地

- ・公園や緑地、広場の整備
- ・総合公園やスポーツ公園などの整備
- ・緑化の推進

(5) 河川・下水道

- ・猿渡川などの二級河川の整備促進と、準用河川の整備推進
- ・境川流域関連公共下水道の整備
- ・総合的な治水対策を進める総合排水計画の策定

(6) 自然環境

- ・ 史跡・文化財などの歴史資源の保全・活用
- ・ 市街地内にある寺社境内林などの保全
- ・ 優良農地の保全

(7) 都市環境

- ・ 高齢者などが利用しやすいバリアフリー化の推進
- ・ 来街者などを円滑に誘導する公共サインの整備

(8) 都市景観

- ・ 市街地内の緑化と歴史資源や自然環境の保全・育成
- ・ 中心市街地における電線類の地中化

(9) 都市防災

- ・ 公共施設の耐震診断と耐震補強
- ・ 安全な避難所や避難経路の整備・確保